４　主要作物生育、作柄の概要

１）農作物生育状況

（１）普通作物

① 水稲（平年並　作況指数１０１　県北部１００　県中部１０１　県南部１０２）

農林水産統計より

［早植栽培］　（経営技術課情報より）

・本年は３月下旬に気温が急激に低下したことから一部の地域で発芽障害が確認された。苗の生育は４月が高温・多照傾向で推移したため、苗丈は平年並で乾物重がやや重い良好な苗が得られた。

・５月の好天により田植え後の活着が良好、初期生育も順調で５月下旬には草丈、茎数ともに平年を上回り、やや葉色も濃くなった。

・６月の気温は平年並で日照時間が少なく経過し、分けつの発生は緩慢となり、草丈が高く茎数は平年並となった。梅雨入りは平年より２日遅い６月１０日で空梅雨傾向であった。６月下旬はやや高温となったが日照時間が少なく茎数の増加は少なく平年比９７％となった。

・７月の気温は高く推移したが、日照時間は引き続き少なく経過したことから草丈が高く茎数が少ない軟弱な生育となった。

・出穂期は平年よりも４日早くなり、８月前半が日照不足で経過したことから登熟の進みが緩慢になった。成熟期は９月１５日で１日程度早くなり、登熟日数は４６日と３日早くなった。

［普通植栽培］　（経営技術課情報より）

・苗の生育は５月下旬～６月上旬が低温、寡照になったことにより、草丈が長く、乾物重が重くなった。

・田植えは麦の生育がやや早まったことから、やや早めに行われた。

・７月中旬から８月上旬まで高温、寡照により茎数がやや少なく、草丈はやや高い傾向が続き、生育は８月３日で平年よりも２～４日程度遅れた。

・８月中旬から気温が高くなり日照時間も確保できたことから、遅れていた生育は急速に回復し、出穂期は平年並となった。

・登熟期間の気温は平年並で日照が多く経過した。成熟期、成熟期間とも平年並となった。

主要品種の生育状況（生育診断ほ平均）　（経営技術課情報より）

品種	出穂期		成熟期		登熟日数		登熟歩合(％)		収量(kg/10a)	
	21 年	平年	21 年	平年	21 年	平年	21 年	平年	21 年	平年
コシヒカリ（早植）	7.31	8.4	9.15	9.16	46	43	86.2	80.3	593	555
あさひの夢(普通植)	8.26	8.26	10.13	10.13	48	48	91.2	79.2	570	521

参考：品質の概況（平成 21 年 11 月 15 日現在）　(栃木農政事務所より)

・１等比率コシヒカリ 94 ％、あさひの夢 98 ％、なすひかり 92 ％。

・２等以下各付け理由の上位は胴割粒 51.3 ％、カメムシ類 19.9 ％、他。

② 麦類（平成２１年産）　　（経営技術課情報より）

収量（対前年比）　小麦：９４　二条大麦：８９　六条大麦：８１

・播種作業は適期に行われ、苗立ちは概ね良好だった。周期的な降雨の為、麦踏みが十分でなく、１月下旬からの低温による生育不良のほ場があり、１月下旬の大雨によりかなりの頻度で湿害が発生した。
・全般には暖冬で推移したため生育は促進され、草丈が高く幼稈長も長くなった。
・出穂前３月下旬から４月上旬の低温と肥料の流亡で短穂、小粒となった。生育促進は緩和され、二条大麦、六条大麦で２～４日、小麦で１～２日早くなった。
・出穂期以降は高温日が続き、登熟はかなり促進された。４月以降は降水量が多く、湿害ほ場では生育ムラを生じた。
・収穫は全般的に３～５日早かったが、小麦は降雨の為に刈り遅れぎみとなった。
・小麦では農林６１号やタマイズミでコムギ縞萎縮病の発生が県内全域でみられ減収を避けられないほ場が多かった。
・二条大麦、六条大麦は粒の充実が劣り細実傾向。小麦は極端な充実不足がみられるものがあった。

③ 大豆　　（経営技術課情報より）

・６月中旬から播種が始まったが、入梅後降雨が継続したため播種作業が遅れた。
・７月上旬播種ほ場の一部に、多雨の影響による出芽不良が見られ生育が遅れた。シストセンチュウ被害が一部ほ場にみられた。
・７月上旬や７月下旬～８月上旬の多雨の影響により湿害が一部ほ場に発生。子実肥大期には草丈やや高く、主茎長はやや長く、着莢数は日照不足等の影響によりやや少なくなった。
・黄葉期が７～１０日と早く、粒の肥大が遅れたために乾物莢重は軽くなった。
・黄葉、落葉が早く、収穫期は７～１０日早くなった。
・子実は全般的に小粒傾向で、ちりめんじわ、紫斑粒が目立った。